



萌木 11月号



調布市立第七中学校

校長 山田 勝

令和3年11月10日発行

～自尊・立志・感動～

「ふれあい月間」での成長への期待

校長 山田 勝

例年ですと、6月と11月に東京都が進める「ふれあい月間」が設定され、都内全公立学校で取り組みを進めているところです。いじめの防止・自殺の予防・犯罪非行の防止や不登校の対策に関する取組状況を把握し、課題・解決策を検討して、組織的な取り組みを推進していくためです。

このうち、いじめの防止については、この取り組みを通して生徒一人一人に、いじめをしない・させない社会的資質の涵養と、行動できる力を育てることを目標にしています。

取り組みのひとつの「あいさつ運動」については、今年は感染状況を踏まえ、地域の方やPTAに協力のお願いをせず、生徒中心にできることを行います。生徒委員や七中VNW(ボランティアネットワーク)が中心となり活動する計画を進めています。

全校朝礼では、「ふれあい月間」の意義を踏まえ、次のような話を生徒たちにしました。

今月は、東京都教育委員会がさだめた「ふれあい月間」です。

「ふれあい」という言葉は、人と人が心を通わせあうことを指しています。みなさんも合唱コンクールのときは、歌い手としてクラスのみんなと心通わせ、同じ目標に向けて協力したと思います。そのようなふれあいもあるし、聞き手として他クラスの発表を聞いて、歌から届くメッセージを受け取ること、このことも心通うふれあいの一場面だと思います。

そのとき、みなさんはどのような気持ちでしたか。自分の心の中に温かさを感じませんでしたか。とても心地よい温かさではありませんでしたか。

そのような気持ちが広がりいつまでの続していくと、とてもいい社会を作っていくのではないでしょうか。

その関係は合唱コンクールなどの行事の時だけに作ることができるというものではありません。日頃から、自分の周りの人に関心を持ってください。今その人は何を考え、何を感じているのだろうと考えるようにしてみてください。そう考えることが、周りの人に思いやりの心を持つということになると思います。思いやりの気持ちをもって人とふれあうことで温かい気持ちがまた生まれてきます。

相手に関心を持つ、でとどまらず、相手の気持ちに関心を持ちましょう。

例えば、朝寝癖がついたままの人がいたとします。「あの人の髪形寝癖がついたままだ」と関心を持つだけでなく、「寝癖がついたままで、みんなに見られて恥ずかしい思いをしていないかな」と人の気持ちにも関心を持つてみてください。

少しでも、温かい気持ちで人に接することができるようになるのではないか。温かい気持ちの関係が広がることが、人をせめたり蔑む気持ちを少なくして、心地よい集団ができるようになると思います。七中の全クラスが、全生徒がそのような関係の集団になってくれることを期待しています。

そして、その集団の中で一人一人が未来に夢と希望を持ち挑戦していく人になってほしいと思います。

人とのふれあいを通して獲得することができる気持ちや力。物理的な人の関わり方に配慮が必要な状況ですが、心情面で人とふれあい、関わる場面を増やしていけるようにしたいと思います。

10月22日に東京調布ライオンズクラブから講師をお招きし、1年生を対象に喫煙・薬物乱用防止教室を行いました。決められた目的外での使用が特に未成年者に与える影響について学びました。生徒の気持ちに寄り添った講義で、熱心に学んでくれました。